

HOT! NEWS

A 中長期計画
「Next Frontier 2025」策定開始

中等教育における先導的な国際教育の実現に向けて

今年2014年は名古屋国際高等学校に国際教養科を設置し、中等教育における国際教育を実践し始めてから20年目を迎える記念すべき年です。建学の精神であるフロンティア・スピリット(開拓者精神)を軸とし、従来から実践してきた国際教育の質を高め、名古屋国際のさらなる飛躍を実現するため、21世紀のファーストクォーターを迎える2025年を目標年とした中長期計画「Next Frontier 2025」の策定を開始します。

柱となる3つの将来ビジョンを実現するために、3つの戦略に基づいた15のアクションプランを実行することを予定しています。なお、来年の2015年度より将来ビジョンを踏まえた学校基本計画(State of The School:以下、STS)に照らし合わせて進捗状況を評価し、その評価結果を次年度のSTSに再度反映することを想定しています。また、社会の変化や本校の財政状況も鑑み、中長期計画実行協議会(仮称)で成果が見込まれないと判断されたものはキャンセルするなどして、常に実行可能なアクションプランに軌道修正しながら10年後の2025年までにビジョンの実現を果たします。■

「Next Frontier 2025」の
基本イメージ

3つのビジョン

3つの戦略

15のアクションプラン

ビジョン実現に向けた数値目標の設定

B Wind Orchestra第10回定期演奏会

吹奏楽部Wind Orchestraの第10回定期演奏会が
愛知県芸術劇場コンサートホールにて開催されます。

部員一人ひとりが懸命に練習を重ねてきた成果を発表する場で、1年間の活動のクライマックスです。クラシックの楽曲からポップスまで、幅広いプログラムでお届けいたします。また、特別ゲストとしてオルガニストの吉田文さんをお招きします。壮大なパイプオルガンの音色との共演をぜひお楽しみください。■

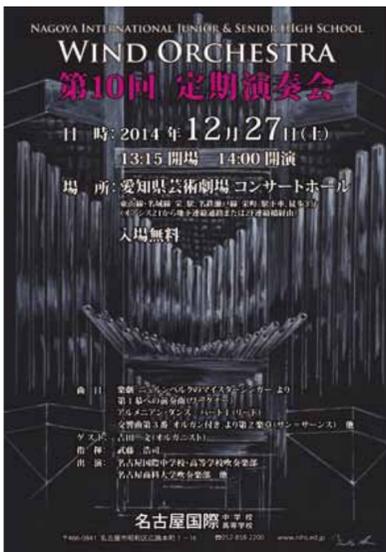
【日時】2014年12月27日(土)13:15開場 / 14:00開演

【場所】愛知県芸術劇場コンサートホール 入場無料
東山線・名城線「栄」駅、名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩3分
(オアシス21から千貫連絡通路または2F連絡橋経由)

【指揮】武藤 浩司

【曲目】

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲(ワグナー)
アルメリアン・ダンス
パート1(リード)
交響曲第3番「オルガン付き」より第2楽章(サン＝サーンス) 他



Feature

昨年、本校の生徒が初めて全国大会出場を果たした『全日本高校模擬国連大会』。今年は中高一貫4・5年生4名が9月の一次選考、11月の「本会議」に向けて熱心に準備を進めています。挑戦を決意した理由や、課題に取り組む過程で感じたこと、全国大会に向けた意気込みを聞きました。



▲「ペアの協力と独自性のある主張で本選をめざしたい」と内海来翔さん(中高一貫5年生)

▲「昨年の経験を活かして今年も全国大会に出場したい」と菊澤萌さん(中高一貫5年生)

▲「自分に足りない部分(積極性)を磨く機会にできれば」と金沙希さん(中高一貫4年生)

▲「中途半端にならないよう、全力で取り組みます」と山田亜実さん(中高一貫4年生)

目標は2年連続の全国大会出場！
中高一貫4・5年生が“高校模擬国連”に挑戦。

表現力を養うとともに、幅広い視野を身につける

全 国から集まった高校生が世界各国の大使となり、国際社会で実際に起きている諸問題について英語で議論する『全日本高校模擬国連大会』。今年で8回目を迎える大会には毎年数多くの高校生が参加し、11月に東京で開催される「本会議」では一次選考に合格した80校が、本物の国連会議ながらの白熱した論戦を繰り広げます。本校からも昨年初めての参加者が誕生。初挑戦ながら見事に全国大会に出場を果たし、今年も中高一貫コースから4名が校内選考にエントリーをしています。

「昨年の全国大会で知り合った他校の友人に誘われ、今年もチャレンジすることを決めました」と話す菊澤萌さん(中高一貫5年生)は、校内選考にエントリーした生徒の中では唯一の大会経験者。他校で開催される練習会にも積極的に参加するなど、模擬国連を通して交流の輪を広げています。「昨年はペアを組んだ先輩に頼る場面が多く、自分の実力不足を痛感しました。悔しい思いもしたけれど、とても貴重な経験になったので、今

年は自分が後輩をリードする立場として頑張りたい」と意欲を見せます。そんな先輩に憧れて『全日本高校模擬国連大会』に挑戦することを決意したのは、中高一貫4年生の山田亜実さんと金沙希さん。「いつも遅くまで学校に残って頑張っている姿を見て、自分も高校生になったら絶対に挑戦しようと思いました」と目を輝かせた山田さん。金さんも「必ず全国大会に出場して、先輩のようにたくさんの友だちを作りたい」と笑顔を見せます。大会を主催するグローバル・クラスルーム日本委員会が掲げる理念は、豊かな国際感覚と社会性を有し、未来の国際社会に指導的立場から貢献できる人材を育成すること。2人は今年度からスタートした『Pre IDBP』にも参加するなど意欲的な生徒で、担任で英語科の津森紀乃先生も「自分の意見を伝える表現力を養うとともに、さまざまな立場から物事を考えられる幅広い視野を磨いてほしい」と大きな期待を寄せています。

新しいことに挑戦して「自分の可能性を試したい！」

今 年の『全日本高校模擬国連大会』の一次選考課題は、「日本のODA(政府開発援助)」の現状と問題点に関する日本語レポートと、「グローバル化が世界に与える影響」について意見を述べる英語レポートの提出。校内選考にエントリーした4名は、夏休みを利用して熱心に課題レポートの作成に取り組みしました。ODAとは何かを理解することから始まり、膨大な資料の中から自分の主張を簡潔にまとめる作業はとても大変でした」と金さん。提出期日が迫った頃には、1日の大半をレポート作成に費やすこともありましたが、「菊澤先輩からいろいろとアドバイスをもらった」ことで、無事に完成させることができたそうです。一方、山田さんは「いろいろな資料や文献を読み比べて楽しかった」と満足げな表情。特にODAに関するレポートでは、「自分がイメージしていたことと現実との違いを理解することができ、もっといろいろなことを知りたいという意欲が生まれました」と、自身の成長に手応えを感じています。

「昨年は発表者を支える“交渉役”を経験したので、今年はスピーチ役としても積極的に関わりたい」と意気込みを語る菊澤さんのように、個々の目標に向かって大会への準備を進める4名。一次選考合格をめざして「レポートの内容はもろろん、発表が得意、資料をまとめるのが上手など、それぞれの個性や持ち味を発揮できるペアリングにしたい」と津森先生。「やるからには後悔だけはしたくない」と(山田さん)、「自分の可能性を試したい」と(金さん)と、誰もが意欲的に取り組んでいるだけに、チーム編成は先生にとっても嬉しい悩みになっているようです。それでも「お互いのことをよく理解しているので誰とペアを組んでも大丈夫」と前向きな生徒たちの様子は、大会テーマの『Overcoming yourself ~自身に打ち克つ~』そのもの。選考の結果はさておき、生徒たちには『全日本高校模擬国連大会』に挑戦することで、将来に役立つさまざまな“引き出し”を手にして、今後の学校生活に活かしてくれることを期待します。■



▲目を輝かせながら全国大会への意気込みを語ってくれた国際生たち。



▲本校から初出場となった昨年の『全日本高校模擬国連大会』での記念スナップ。(右が菊澤萌さん)

▲会議は2日間にわたって行われ、数多くの交渉・スピーチを経て「決議案」を出します。

「全日本高校模擬国連大会」とは

参加者(高校1・2年生)が国連加盟国の大使として、国際会議のシミュレーションを通じ、現代社会における諸課題について学ぶ教育プログラム。1923年にハーバード大学で始まり、日本では2014年度大会が8回目の開催で、課題レポート提出による一次選考に合格した80校(160名)が本大会に出場。

Report

1 埼玉県議会による行政視察団に、
先進の国際教育カリキュラムを紹介

去る8月20日、埼玉県議会

『人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会』の一行が来校。本校の特色ある国際教育の内容や充実した施設に、埼玉県議会議員をはじめ視察団の多くが感銘を受けている様子でした。

埼玉県議会からの依頼を受け、実施されることとなった今回の訪問。「グローバル人材育成の取組について」をテーマとした視察団には、特別委員会の議員だけでなく、埼玉県教育委員会教育長をはじめ県教育委員会の方も同行されました。視察先に選定されたのは、本校の特色あふれる「国際教育への取り組み」が評価されたものと考えています。愛知・三重・滋賀を訪

れる今回の訪問で、愛知県では本校だけが唯一の視察先という事実からも、その関心の高さがうかがえます。

ワールドオンライン教室で行われた学校紹介では、大西直子入試広報部長が教育理念やカリキュラム、特徴的な国際教育について説明。続いて片山寿弘経営企画部長が、2015年4月の導入に向け準備が進む国際バカロリアディプロマ・プログラム(IBDP)の概要を紹介。視察団が資料を凝視し、熱心に耳を傾ける様子が見られました。

特にIBDPに対しては関心が高く、質疑応答ではプログラムの本質に迫るような具体的な質問も出されました。校舎内の見学では充実した施設に驚きや感嘆の声もあがりました。また、議員と生徒が触れあう和やかな場面もあり、限られた時間ではありましたが、学校の魅力を伝えられた、とても有意義な視察にすることができました。■



▲アトリウムを見学される埼玉県議会行政視察団の皆さん。

2 第7回フロンティアカップ
英語スピーチコンテスト開催

名古屋国際主催の小中学生対象英語スピーチコンテストが、過去最大の出場者を迎え、8月27日(水)に盛大に催されました。

今年も、昨年を上回る57名のエントリーがあり、個性を活かしたスピーチが発表されました。有田帆風さん(名古屋国際中3年)のWelcome Speechで始まったコンテスト。小学生の部は多目的教室、中学生の部はワールドオンライン教室で進められました。Cristian CLINCI氏(NUCB:名古屋商科大学)や本校ネイティブファカルティの審査により、小学生の部は課題スピーチの原田桜子さん(大須小6年)、中学生の部は「What makes life precious?」を発表した萬太陽君(愛教大附属中2年)がフロンティアカップ賞に輝きました。

今年のスピーチは完成度の高いものが多く、審査員も大変だったようです。大勢の観客の前で身振り手振りを交えながらカーン杯表現した出場者にとって、今後の英語学習の大きな励みとなったと思います。■

【小学生の部】
フロンティアカップ賞
原田桜子さん(名古屋立大須小 6年)
愛知県知事賞
西尾結翔君(名進研小 5年)
名古屋市長賞
北川稔君(名進研小 5年)
愛知県教育委員会賞
戸崎侑君(名古屋立表山小 5年)

【中学生の部】
フロンティアカップ賞
萬太陽君(愛知教育大学附属中 2年)
愛知県知事賞
西村エーロン君(刈谷市立依佐美中 3年)
名古屋市長賞
大友志穂さん(愛知教育大学附属中 1年)
愛知県教育委員会賞
小川コナさん(名古屋立振南中 2年)



▲ジェスチャーを交えながら、大きな声でスピーチしました。